

平成 27 年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業

メディア芸術千夜一夜 実施報告書

一般社団法人 日本アニメーター・演出協会

平成 28 年 2 月

| | |
|--------------------------|----|
| 第1章 事業概要 | 5 |
| 第2章 事業の目的、趣旨 | 6 |
| 第3章 実施体制 | 7 |
| 3.1 運営スタッフ | 7 |
| 3.2 協力団体等 | 7 |
| 3.3 登壇者等 | 7 |
| 第4章 全体スケジュール | 11 |
| 第5章 実施内容 | 12 |
| 第6章 広報・広報制作物 | 23 |
| 6.1 Web 告知 | 23 |
| 6.1.1 一般社団法人日本アニメーター演出協会 | 23 |
| 6.1.2 一般社団法人アニメミライ | 24 |
| 6.1.3 京都精華大学 | 25 |
| 6.2 メールマガジンでの告知 | 27 |
| 6.3 Web アンケート | 30 |
| 6.3.1 アニメミライ上映会分 | 30 |
| 6.3.2 アニメミライ上映会以外分 | 31 |
| 第7章 成果・課題・評価 | 32 |
| 7.1 アンケート結果 | 32 |
| 7.2 課題 | 33 |
| 7.2.1 告知の不足 | 33 |
| 7.2.2 内容の検討不足 | 34 |
| 7.2.3 運営の準備不足 | 34 |
| 7.2.4 複合分野という特質性 | 34 |

目次

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 7.2.5 | 来場者・視聴者の対象層が不明瞭 | 34 |
| 7.2.6 | 使用できる映像等素材の権利関係の手続が煩雑 | 34 |
| 7.2.7 | 実施場所、登壇者のスケジュール調整が難しい | 34 |
| 7.3 | 評価 | 35 |

第1章 事業概要

第1章 事業概要

8月1日、2日、7日、9日、14日、21日と夏休み期間中に国立新美術館に来館する方々をメインターゲットとして、マンガ・アニメのプロフェッショナルなクリエイターや研究者などがトークイベントや上映会を行うことで、プロフェッショナルの真髄（職業倫理観の高さや、技術的要求度）などを身近に感じてもらう機会を提供するとともに、クリエイター・エンターテインメント分野の研究についても興味・関心を促すイベントを開催した。

事業については、来場者の満足度は高かったものの、準備期間の短さから十分な告知ができなかった点、複合分野にまたがる実施のために来場者の方向性を絞りきれなかった点、使用できる映像等素材の権利関係の手続が煩雑な点など課題が浮き彫りになった。

最終的には、当初想定した万全な結果は得られなかったが、前述の課題を明確化でき、実験的な試みにチャレンジできたことは非常に有意義だったと考える。次年度に複合領域での採択がある場合には「可能な限り早期着手」「分野別の専門家による企画運営チーム編成」「各種権利者間との迅速な権利処理」「実施についての柔軟性の向上」が不可欠と考える。

第2章 事業の目的、趣旨

第2章 事業の目的、趣旨

本事業は、JAniCA 自身を持つ豊富なクリエイターのネットワークと関連団体の協力により、アニメ・マンガ・ゲームにおける熱心なファンだけでなく、国立新美術館に来場するようなアカデミック分野のファン、夏休み期間中に訪れる低年齢層のファンとその保護者など「広義の意味での『ファン』」に向けて、プロフェッショナルなクリエイターや研究者などが、アニメ・マンガ・ゲームなどの分野をまたいだトークイベントや上映会を行うことで、表層的には「楽しいイベント」を出発点としつつ、隣接分野の楽しみ方や、プロフェッショナルの真髄（職業倫理観の高さや、技術的要求度）などを身近に感じてもらう機会を提供するとともに、クリエイター・エンターテインメント分野の研究についても興味・関心を促す。

第3章 実施体制

3.1 運営スタッフ

大坪英之（JAniCA事務局・事務局長）

システムエンジニア。「アニメーター労働白書 2009」「アニメーション制作者 実態調査報告書 2015」「文化庁 若手アニメーター等人材育成事業（平成 20～24 年）」などを担当。

「JAniCA Watch」（i アプリ）の復刻や、「ラインテストツールについての意識調査」など経歴を活かした活動をしている。

3.2 協力団体等

一般社団法人日本アニメーター・演出協会

事業企画実施団体。

広報活動、イベント運営を実施。

文化庁委託若手アニメーター等人材育成事業（平成 22～25 年）実施団体

一般社団法人日本動画協会

文化庁委託若手アニメーター等人材育成事業（平成 26～27 年）実施団体

「アニメミライ 2015」の映像素材貸出しについて御協力を頂きました。

一般社団法人アニメミライ

「アニメミライ 2011～2014」の映像素材貸出しについて御協力を頂きました。

広報活動について御協力を頂きました。

京都精華大学

マンガ分野におけるトークショーの実施

TVCM 上映、講演の実施。

広報活動について御協力を頂きました。

3.3 登壇者等

五所光太郎

1975 年生まれ。埼玉県出身。編集・ライター

雑誌「アニメージュ」「アニメスタイル」などの編集、記事執筆等を担当。

SF 作家・式貴士の研究サイト「虹星人」を運営。

編書に、『虹のジブシー』（論創社）がある。

第3章 実施体制

前田久

アニメライター。1982 年生まれ。「月刊ニュータイプ」など各種アニメ誌やムック、作品の公式サイト、パッケージのブックレットなどの仕事を手掛ける。通称“前Q”。

黄瀬和哉

「たんすわらし。」監督／Production I.G

大阪府出身のアニメーター、作画監督、監督。Production I.G 取締役。

「機動警察パトレイバー」(1989)、「機動警察パトレイバー 2 the Movie」(1993)、「GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊」(1995)、「新世紀エヴァンゲリオン劇場版 シト新生」(1997)、「新世紀エヴァンゲリオン劇場版 Air/まごころを、君に」(1997)、「BLOOD THE LAST VAMPIRE」(2000)、「WXIII 機動警察パトレイバー」(2003)、「イノセンス」(2004)、「エヴァンゲリオン新劇場版:序」(2007)、「東のエデン 劇場版 I The King of Eden」(2009)、「東のエデン 劇場版 II Paradise Lost」(2010)、「劇場版 戦国 BASARA -The Last Party-」(2011)、「劇場版ポケットモンスター ベストウイッシュ ビクティニと黒き英雄 ゼクロム・白き英雄 レシラム」(2011)、「劇場版 BLOOD-C The Last Dark」(2012)、「宇宙戦艦ヤマト 2199 星巡る方舟」(2014) など、劇場作品の作画監督を多数務める。

近年では、「攻殻機動隊 ARISE」(2013)において総監督・キャラクターデザイン・border:3 監督・border:3 作画監督、「攻殻機動隊 新劇場版」(2015) 総監督なども務める。

谷村大四郎

「たんすわらし。」脚本、「わすれなぐも」脚本

アニメ脚本家。『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』を始め、TV・劇場アニメーションの制作進行・デスクを多数経験の後、脚本家としてフリーとなる。

「黒子のバスケ」第1期(2012)～第3期(2015)や、「翠星のガルガンティア ～めぐる航路、遙か～ 前編/後編」(2014) など多数の作品にて脚本執筆。

村川康敏

「ぷかぷかジュジュ」脚本

アニメ作品では「ゴルゴ13」(2009)、「名探偵コナン」(2012～)などの脚本を手掛ける。実写作品では、映画、オリジナルビデオ、連続ドラマ、2 時間ドラマなど多数手掛けている。最近作は「案山子とラケット ～亜季と珠子の夏休み～」(2015)。

日本シナリオ作家協会所属。

第3章 実施体制

渡辺歩

「大きい1年生と小さな2年生」監督/A-1 Pictures

アニメ監督、アニメーター、アニメ演出家。

シンエイ動画にて、劇場版「ドラえもん」で原画・作画監督を務め、同テレビシリーズでも演出や作画監督を長く担当。劇場版「ドラえもん のび太の恐竜 2006」では初の長編作品監督を務め、同作品は第1回 Invitation AWARDS アニメーション賞を受賞。「宇宙兄弟」(2012～2014)、「団地ともお」(2013～2015)など監督を務める。最近作は「逆転裁判」(2016)にて監督を務める。

外崎真

「大きい1年生と小さな2年生」プロデューサー/A-1 Pictures

シンエイ動画では主に「ドラえもん」のテレビ・映画シリーズで制作進行・制作デスクを担当。後に「宇宙兄弟」や「大きい1年生と小さな2年生」で共に仕事をする渡辺歩ともここで出会う。長年仕事をしてきたシンエイ動画を退社し、A-1 Pictures へ入社。「宇宙兄弟」で自身初のアニメーションプロデューサーを担当し、「世界征服～謀略のズヴィズダー～」(2014)、「ガンズリンガー ストラトス」(2015)、「宇宙兄弟#0」(2014)などアニメーションプロデューサーを務める。

吉浦康裕

「アルモニ」監督/ULTRA SUPER PICTURES

アニメーション監督。

学生の頃から個人でアニメーションを制作し、国内外のコンペで発表。卒業後は初商業の個人制作アニメ「ペイル・コクーン」を制作。その後東京に移住し、シリーズ Web アニメ「イヴの時間」(2008)全6話を制作。さらに、「イヴの時間 劇場版」(2010)を全国公開。東京国際アニメフェア 2010・第9回東京アニメアワード優秀賞 OVA 部門受賞作品、第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門審査員推薦作品。

続いてオリジナル劇場アニメ「サカサマのパテマ」(2013)を制作し全国公開。以後も「アニメミライ 2014」にて「アルモニ」、「日本アニメ(ーター)見本市」にて「PP33」「ヒストリー機関」など順次制作。

金子雄司

「アルモニ」美術監督/ULTRA SUPER PICTURES

アニメ美術。

「魔法少女まどか☆マギカ」(TV6 話まで共同)、「blossom」、「サカサマのパテマ」、「リトルウィッチアカデミア」、「キルラキル」、「アルモニ」、「アオハライド」、「(アニメーター見本市より)

第3章 実施体制

PP33」「(同) ヒストリー機関」、「(同) カセットガール」、「リトルウィッチアカデミア魔法仕掛けのパレード」、「ブブキブランキ」など

稲垣亮祐

「アルモニ」プロデューサー／ULTRA SUPER PICTURES

「サカサマのパテマ」(2013)、「アルモニ」(2014)、「ニンジャスレイヤー フロムアニメイシヨン」(2014)、「異能バトルは日常系のなかで」(2014)、「(アニメーター見本市より) PP33」(2015)、「(同) ヒストリー機関」(2015)、「ハッカドール THE・あにめーしょん」(2015)などアニメーションプロデューサーとして活躍中。

すがやみつる

京都精華大学 マンガ学部 キャラクターデザインコース 教員、漫画家

青柳誠

石ノ森章太郎ファンクラブ会長

高野光平

茨城大学人文学部准教授

京都精華大学表現研究機構・テレビCM研究プロジェクトメンバー

第4章 全体スケジュール

第4章 全体スケジュール

実施年度はいずれも2015年。

8月1日(土)

- 11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映
- 14:00～15:45 上映会 「アニメミライ2011」上映会
- 15:45～16:30 講演 「アニメミライ2011」スタッフトークショー

8月2日(日)

- 11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映
- 14:00～15:45 上映会 「アニメミライ2012」上映会
- 15:45～16:30 講演 「アニメミライ2012」スタッフトークショー

8月7日(金)

- 14:00～14:30 上映会 「アニメミライ2013」
- 17:00～19:30 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映

8月9日(日)

- 11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映
- 14:00～15:45 上映会 「アニメミライ2014」上映会
- 15:45～16:45 講演 「アニメミライ2014」スタッフトークショー

8月14日(金)

- 13:00～13:30 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映
- 14:00～15:30 講演 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」
- 16:00～17:30 講演 「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲームの源流をさぐる—サブカル*オタクのpre 1989—」
- 18:00～19:30 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映

8月21日(金)

- 14:00～16:30 上映会 「アニメミライ2015」

第5章 実施内容

8月1日（土）

11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」 ループ上映

1. 白砂電気〈シルバーラジオ〉1954（昭和29）年
2. 三菱電機〈三菱ミキサー〉1955（昭和30）年
3. 銀座日本堂 1955（昭和30）年
4. 資生堂〈パール歯磨き「森のお友達」〉1955（昭和30）年
5. パイロット〈パイロット万年筆〉1956（昭和31）年
6. 三共〈ミネビタール〉1956（昭和31）年
7. 伊勢半〈キスミーファンデ〉1956（昭和31）年
8. オリエンタル〈オリエンタルカレー〉1956（昭和31）年
9. 山之内製薬〈コデシリン〉1957（昭和32）年
10. 久光兄弟〈サロンパス〉1957（昭和32）年
11. シルバー編機製造〈シルバーリード編物機〉1957（昭和32）年
12. 田辺製薬〈ベキシソ〉1957（昭和32）年
13. 山内洋行〈ツバメコート〉1958（昭和33）年
14. カルピス食品工業〈カルピス〉1958（昭和33）年
15. 寿屋〈トリスウイスキー〉1958（昭和33）年
16. 警視庁〈警察は110番〉1959（昭和34）年
17. 銀行協会〈銀行預金〉1959（昭和34）年
18. 中外製薬〈バルサン〉1959（昭和34）年

（CMの制作会社は、すべて（株）テイ・シー・ジェイ）。

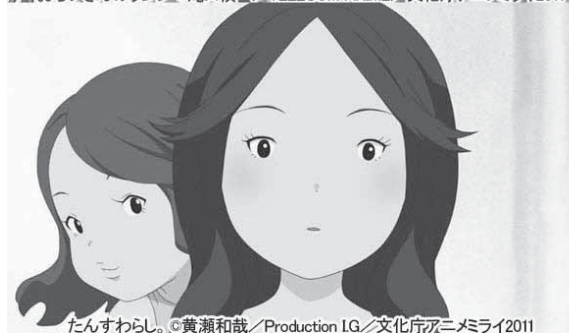
テレビ黎明（わいめい）期に放映された、創成期のアニメーション表現によって、ニッポンのマンガ、アニメ、ゲームの持つ魅力の一面を紹介。

※以下、別日においても同内容をループ上映。

第5章 実施内容

14:00～15:45 上映会 「アニメミライ 2011」 上映会

アニメミライ 2011「キズナ一撃」「万能野菜ニンニンマン」「おぢいさんのランプ」「たんすわらし。」を上映



第5章 実施内容

15:45～16:30 講演 「アニメミライ 2011」 スタッフトークショー

司会：五所光太郎（編集・ライター）

登壇：黄瀬和哉（「たんすわらし。」監督／Production I.G）

谷村大四郎（「たんすわらし。」脚本）

「Production I.G のアニメの作り方」をメインテーマにし、幅広い来場者を想定し、原画、動画、作画監督といった用語の初歩的な解説しつつ、『たんすわらし』が作られていった経緯を中心に、普段のIGアニメの作り方にもつなげていきました。

また、黄瀬氏の初監督作品である点にも注目し、若手アニメーターへの指導方法や、演出をされた体験なども振り返っていただきました。



第5章 実施内容

8月2日(日)

11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」ループ上映

※8月1日の同項目を参照

14:00～15:45 上映会 「アニメミライ2012」上映会

アニメミライ2012作品 「BUTA」「しらんぷり」「ふかぶかジュジュ」「わすれなぐも」を上映



第5章 実施内容

15:45～16:30 講演 「アニメミライ 2012」 スタッフトークショー

司会：五所光太郎（編集・ライター）

登壇：村川康敏（「ふかふかジュジュ」脚本）

谷村大四郎（「わすれなぐも」脚本）

稲垣亮祐（「アルモニ」プロデューサー／ULTRA SUPER PICTURES）

出自や活動範囲の異なる二人の脚本家を通して「アニメの演出とはどんなことをしているのか」をテーマに話題を展開。村川氏には、実写とアニメ、両方でお仕事されている立場から、演出家の仕事の違いや、脚本の書き方の違いなどにも触れて頂きました。そして、脚本家の谷村氏、村川氏からは脚本家から見た監督の仕事ぶりなど興味深いお話を聞かせて頂きました。また、稲垣氏からはプロデューサーから見た「演出家の役割」について、担当された作品を例に挙げながら、お話に参加して頂きました。



第5章 実施内容

8月7日（金）

14:00～14:30 上映会 「アニメミライ 2013」

アニメミライ 2013 作品 「龍-RYO-」「アルヴ・レズル」「リトルウィッチアカデミア」「デス・ビリヤード」を上映

※上映から 20 分ほど後に、機材トラブルが発生し 30 分ほど中断発生。



17:00～19:30 上映会 「昭和 30 年代の TVCM とアニメーション」 ループ上映

※8月1日の同項目を参照

第5章 実施内容

8月9日(日)

11:00～13:00 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」 ループ上映

※8月1日の同項目を参照

14:00～15:45 上映会 「アニメミライ2014」 上映会

アニメミライ2014 作品 「パロルのみらい島」「大きい1年生と小さな2年生」「黒の栖-クロノス-」「アルモニ」を上映



第5章 実施内容

15:45～16:45 講演 「アニメミライ 2014」 スタッフトークショー

司会：前田 久（アニメライター）

登壇：渡辺 歩（「大きい1年生と小さな2年生」監督/A-1 Pictures）

外崎 真（「大きい1年生と小さな2年生」プロデューサー/A-1 Pictures）

吉浦康裕（「アルモニ」監督/ULTRA SUPER PICTURES）

金子雄司（「アルモニ」美術監督/ULTRA SUPER PICTURES）

稲垣亮祐（「アルモニ」プロデューサー/ULTRA SUPER PICTURES）

この回は登壇者が多かったために当初の予定より終了時刻を15分延長して実施いたしました。トークに先立ち、国立新美術館への来場有無や、「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」を御覧になったか、「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」で御自身の作品が展示されていたかなど、同時に開催されていた展覧会からの参加者と話題を共有する、あるいは、トークショーの後に展覧会へ誘導する話となりました。

次に、「(文化庁事業としての) アニメミライ」から入り、個々の作品や制作時の秘話、アニメミライでの経験はみなさんの仕事にどんな影響を与えたのかなどお話を頂きました。

最後に、各登壇者の最近のお仕事についてお聞きしました。



第5章 実施内容

8月14日（金）

13:00～13:30 上映会 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」 ループ上映

※8月1日の同項目を参照

14:00～15:30 講演 「昭和30年代のTVCMとアニメーション」

講師：茨城大学人文学部准教授 高野光平

京都精華大学は、約23,000件のテレビ黎明期のCMを格納した「京都精華大学テレビCMデータベース」を構築しており、このCMデータベースから特に昭和20～30年代のアニメーションCMを厳選した上で、解説付きの上映会を開催します。上映するCMは、次の点にもとづいて選定しました。

1. 1950年代の最初期の作品であること
2. オールアニメーション（実写部分を組み合わせていない）であること
3. セルアニメかコマ撮りであること（スチールアニメ（静止画を動かすタイプ）でないこと）
4. 楽しめる作品であること

テレビ黎明期に放映された、創成期のアニメーション表現によって、ニッポンのマンガ、アニメ、ゲームの持つ魅力の一面を紹介いたしました。

第5章 実施内容

16:00～17:30 講演 「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲームの源流をさぐる—サブカル＊オタクの pre 1989—」

講師：すがやみつる

スペシャルゲスト：青柳誠（石ノ森章太郎ファンクラブ会長）

「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展は1989年を起点としていますが、そこに至る日本のポップ&サブカルチャーの流れをたどり、いかにして現在のオタク的カルチャーが発展してきたのか、その歴史に長く関わってきたゲストとともに回顧しました。従来のオタクやサブカルの歴史をたどる研究の多くは、マンガ・アニメを対象の中心とし、その起源になったSFやマンガ、アニメのファンダムの分析にまで拡大する傾向にあります。この講演では、更にマイコン・パソコン・ゲーム・同人誌・電子メディアにまで視野をひろげて、その源流に迫りました。



第5章 実施内容

18:00～19:30 上映会 「昭和 30 年代の TVCM とアニメーション」 ループ上映

※8月1日の同項目を参照

8月21日(金)

14:00～16:30 上映会 「アニメミライ 2015」

アニメミライ 2015 作品 「アキの奏で」「ハッピーカムカム」「音楽少女」「クミとチューリップ」
を上映



第6章 広報・広報制作物

6.1 Web告知

6.1.1 一般社団法人日本アニメーター演出協会

■「アニメミライ2011～2015」上映会

「アニメミライ2011～2015」上映会を行います。

予てよりご要望いただいております「アニメミライ2011～2015」の上映会を、国立新美術館での「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム展」の開催に合わせて行います。上映会は入場無料となっておりますので、夏休み期間中のみなさまのご来場をお待ちしております。

なお、「アニメミライ2015」の上映につきましては、一般社団法人 日本動画協会様のご協力を得て実現することになりました。ここにお礼申し上げます。

| | |
|---------|--|
| 日時・内容 | <p>08/01(土) 14:00～16:30 上映:アニメミライ2011(旧称:PEOJECT A) 司会:五所光太郎(編集・ライター) ゲスト:黄瀬和哉(「たんすわらし。」監督/Production I.G) 谷村大四郎(「たんすわらし。」脚本)</p> <p>08/02(日) 14:00～16:30 上映:アニメミライ2012 司会:五所光太郎(編集・ライター) ゲスト:村川康敏(「ぶかぶかジュジュ」脚本) 谷村大四郎(「わすれなぐも」脚本)</p> <p>08/07(金) 14:00～16:30 上映:アニメミライ2013 ※トークショー実施なし</p> <p>08/09(日) 14:00～16:30 上映:アニメミライ2014 司会:前田久(アニメライター) ゲスト:外崎 真(「大きい1年生と小さな2年生」プロデューサー/A-1 Pictures) 吉浦康裕(「アルモニ」監督/ULTRA SUPER PICTURES) 稲垣亮祐(「アルモニ」プロデューサー/ULTRA SUPER PICTURES)</p> <p>08/21(金) 14:00～16:30 上映:アニメミライ2015 ※トークショー実施なし</p> |
| 料金 | 無料・事前申込不要 ※座席数の都合でご観覧いただけない場合がございます。 |
| 場所 | 国立新美術館 3階 講堂 |
| 主催 | 一般社団法人日本アニメーター・演出協会(JAniCA) |
| 協力 | 一般社団法人 日本動画協会 一般社団法人アニメミライ マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアート産学官民コンソーシアム |
| 問い合わせ窓口 | JAniCA事務局(postmaster@janica.jp) |

連携企画

■スペシャルトークイベント1

『紙のマンガは生き残れるか？
 ——デジタルマンガの源流を探る——』

■スペシャルトークイベント2

『ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲームの
 源流をさぐる—サブカル＊オタクの pre 1989—』

■スペシャルトークイベント3

『昭和30年代のテレビCMとアニメーション』＊2回開催

■上映会

『昭和30年代のテレビCMとアニメーション』

イベント・上映会の詳細につきましては、京都精華大学の『国立新美術館「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展 連携企画 トークイベントと上映会の開催のお知らせ』をご確認ください。

6.1.2 一般社団法人アニメミライ

アニメミライ
2015

アキの奏で ハッピーカムカム 音楽少女 クミとチューリップ インフォメーション アニメミライとは

インフォメーション
INFORMATION

「アニメミライ」(2011～2015) 上映会+トークショー

予てよりご要望いただいております「アニメミライ2011～2015」の上映会を、国立新美術館での「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」展の開催に合わせて行います。上映会は入場無料となっておりますので、夏休み期間中のみなさまのご来場をお待ちしております。

日時:

08/01(土) 14:00～16:30 「アニメミライ2011」(旧称:PEOJECT A)
司 会:五所光太郎(編集・ライター)
ゲスト:黄瀬和哉(「たんすわらし。」監督/Production I.G)
谷村大四郎(「たんすわらし。」脚本)

08/02(日) 14:00～16:30 「アニメミライ2012」
司 会:五所光太郎(編集・ライター)
ゲスト:村川康敏(「ぶかぶかジュジュ」脚本)
谷村大四郎(「わすれなくも」脚本)

08/07(金) 14:00～16:30 「アニメミライ2013」
※トークショー実施なし

08/09(日) 14:00～16:30 「アニメミライ2014」
司 会:前田久(アニメライター)
ゲスト:外崎 真(「大きい1年生と小さな2年生」プロデューサー/A-1 Pictures)
吉浦康裕(「アルモニ」監督/ULTRA SUPER PICTURES)
稲垣亮祐(「アルモニ」プロデューサー/ULTRA SUPER PICTURES)

08/21(金) 14:00～16:30 「アニメミライ2015」
※トークショー実施なし

場所:国立新美術館 3階 講堂

料金:無料・事前申込不要
※座席数の都合でご観覧いただけない場合がございます。

主催:一般社団法人日本アニメーター・演出協会(JAniCA)
協力:一般社団法人日本動画協会
一般社団法人アニメミライ
マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアート産学官民コンソーシアム

6.1.3 京都精華大学

ENGLISH ▶ 한국어・中文 ▶ Web Mail ▶ サイトマップ ▶ 交通アクセス ▶ お問い合わせ

京都精華大学
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

G+1 ツイート いいね! 0

資料請求はこちら

大学概要

学部・大学院

入試情報・入学相談

進路・就職

インフォメーショントップ

大学からのお知らせ

トピックス&ニュース

公開講座・イベント

キャンパススナップ

トピックス & ニュース

国立新美術館「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展連携企画 トークイベントと上映会の開催のお知らせ

2015年7月17日

京都精華大学は、6月24日（水）から同年8月31日（月）に国立新美術館（東京都港区六本木）で開催される「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展に合わせて、JAniCA（一般社団法人日本アニメーター・演出協会）が主催するスペシャル・トークイベントと上映会の開催に協力します。ニッポンのマンガ、アニメ、ゲームが持つ、私達の想像力と創造力を再発見する機会となります。参加費無料での公開イベントですので、ぜひお気軽にご来場ください。

■スペシャル・トークイベント1
『紙のマンガは生き残れるか? ——デジタルマンガの源流を探る——』
日時：7月26日（日）14:00~15:30
場所：国立新美術館3F講堂 ※入場無料
申込方法：当日受付 ※先着250名まで
進行：すがやみつる（マンガ学部 キャラクターデザインコース 教員、漫画家）
スペシャルゲスト：小沢高広（二人組漫画家「うめ」の企画、シナリオ、演出担当）

内容
紙の出版物は、マンガも含め、1995年をピークに売り上げが右肩下がりが続いています。最近では雑誌の売り上げが激減し、マンガ雑誌においても『週刊少年ジャンプ』（242万部）、『週刊少年マガジン』（115万部）の2強を除けば、『妖怪ウォッチ』人気を支えられる『月刊コロコロコミック』以外に、100万部を超える雑誌は存在しません。一方で、発行点数と売り上げを伸ばしているのが電子書籍であり、デジタルコミックです。デジタルコミックは、「クリップスタジオ（コミックスタジオ）」や液晶タブレットによる執筆環境も整い、「ペンと紙と鉛筆」を使わずに作品を執筆するマンガ家も増えてきました。また、ペン入れまではアナログ環境ですが、仕上げ段階にはパソコンを使うマンガ家も多くなっています。いまでは「原稿待ち」という編集者が使う業界用語も、マンガ家の仕事場に詰めるのではなく、編集部で入稿用のサーバーに原稿がアップロードされるのを待つことに意味が変わっています。マンガを取りまくデジタルとネットワークの環境は大きく変化してきましたが、デジタルマンガがここに至るまでには、すでに30年の歴史があることは、案外、知られていません。このイベントでは、デジタルマンガの黎明期から現在に至る歴史を、マンガだけでなく、コンピューター（パソコン）とネットワークの歴史を絡めながら振り返るものとなります。

■スペシャルトークイベント2
『ニッポンのマンガ*アニメ*ゲームの源流をさぐる—サブカル*オタクの pre 1989—』
日時：8月14日（金）16:00~17:30
会場：国立新美術館3F講堂 ※入場無料
申込方法：当日受付 ※先着250名まで
進行：すがやみつる（マンガ学部 キャラクターデザインコース 教員、漫画家）
スペシャルゲスト：青柳 誠（石ノ森幸太郎ファンクラブ会長）

内容
「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展は1989年を起点としています。そこに至るニッポンのポップ&サブカルチャーの流れをたどり、いかにして現在のオタク的カルチャーが発展してきたのか、その歴史に長く関わってきたゲストと共に回顧します。従来のオタクやサブカルルの歴史をたどる研究の多くは、マンガ・アニメを対象の中心とし、その起源になったSFやマンガ、アニメのファンタムの分析にまで拡大する傾向にあります。このイベントでは、さらにマイコン・パソコン・ゲーム・同人誌・電子メディアにまで視野をひろげて、その源流に迫ります。

■スペシャルトークイベント3
『昭和30年代のテレビCMとアニメーション』※2回開催
1回目/日時：7月26日（日）16:00~17:30
2回目/日時：8月14日（金）14:00~15:30
会場：両日とも国立新美術館3F講堂（入場無料）

GALLERY FLEUR
京都精華大学芸術系 リーフセラム

京都精華大学
情報館
Library and Information Center

Kara S
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

M
京都国際マンガミュージアム
KYOTO INTERNATIONAL MANGA MUSEUM

IIJiC
京都精華大学国際マンガ研究センター
INTERNATIONAL MANGA RESEARCH CENTER

京都精華大学ファンの会
SEIKA FAN CLUB

学校法人京都精華大学を
ご支援くださる皆様へ

1948
40
1988
京都精華大学40周年記念事業レポート

記念講演会 アーカイブ
commemorative lecture archive

京都精華大学TOP > インフォメーション > トピックス&ニュース > 詳細ページ

TOP

25

第6章 広報・広報制作物

進行：高野光平（茨城大学人文学部准教授、京都精華大学表現研究機構・テレビCM研究プロジェクトメンバー）

申込方法：当日受付 ※先着250名まで

内容

京都精華大学は、約2万3千件のテレビ黎明期のCMを格納した「京都精華大学テレビCMデータベース」を構築しており、このCMデータベースから特に昭和20～30年代のアニメーションCMを厳選した上で、解説付きの上映会を開催します。上映するCMは、次の点にもとづいて選んでいます。

1. 1950年代の最も初期の作品であること
2. オールアニメーション（実写パートを組み合わせていない）であること
3. セルアニメかコマ撮りであること（ステールアニメ（静止画を動かすタイプ）でないこと）
4. たのしんでご覧いただける作品であること

テレビ黎明期に放映された、創成期のアニメーション表現をご覧いただくことで、ニッポンのマンガ、アニメ、ゲームの持つ魅力の一面をご紹介させていただきます。

■上映会『昭和30年代のテレビCMとアニメーション』

上映日時

7月26日（日）11:00～13:00

8月1日（土）11:00～13:00

8月2日（日）11:00～13:00

8月7日（金）17:00～19:30

8月9日（日）11:00～13:00

8月14日（金）13:00～13:30、18:00～19:30

以上計7回上映

会場：国立新美術館3F講堂 ※入場無料

申込方法：当日受付 ※先着250名まで

内容

京都精華大学の持つ「京都精華大学テレビCMデータベース」から、特に昭和20～30年代のアニメーションCM18本を厳選して、上映会を開催します。

上映プログラム

18本のCM約25分のプログラムをループ上映いたします。

1. 白砂電気（シルバーラジオ）1954（昭和29）年
2. 三菱電機（三菱ミキサー）1955（昭和30）年
3. 銀座日本堂 1955（昭和30）年
4. 資生堂（パール歯磨き「森のお友達」）1955（昭和30）年
5. パイロット（パイロット万年筆）1956（昭和31）年
6. 三共（ミネビタール）1956（昭和31）年
7. 伊勢半（キスミーファンデ）1956（昭和31）年
8. オリエンタル（オリエンタルカレー）1956（昭和31）年
9. 山之内製菓（コデシリン）1957（昭和32）年
10. 久光兄弟（サロンパス）1957（昭和32）年
11. シルバー編機製造（シルバーリード編物機）1957（昭和32）年
12. 田辺製菓（ベキシシ）1957（昭和32）年
13. 山内洋行（ツバメコート）1958（昭和33）年
14. カルピス食品工業（カルピス）1958（昭和33）年
15. 寿屋（トリスウィスキー）1958（昭和33）年
16. 警視庁（警察は110番）1959（昭和34）年
17. 銀行協会（銀行預金）1959（昭和34）年
18. 中外製薬（リルサン）1959（昭和34）年
（CMの制作会社は、すべて（株）テイ・シー・ジェイ）。

テレビ黎明期に放映された、創成期のアニメーション表現をご覧いただくことで、ニッポンのマンガ、アニメ、ゲームの持つ魅力の一面をご紹介させていただきます。

会場の国立新美術館へのアクセスはこちら

<http://www.nact.jp/information/access.html>

「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展の情報ははこちら

http://www.nact.jp/exhibition_special/2015/maqi/index.html

*イベントに関する問合せ

第6章 広報・広報制作物



6.2 メールマガジンでの告知

文化庁委託事業「平成27年度文化庁メディア芸術連携促進事業」
「アニメミライ 2011～2015」上映会のお知らせ

予てよりご要望いただいております「アニメミライ 2011～2015」の上映会を、国立新美術館での「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム展」の開催に合わせて行います。上映会は入場無料となっておりますので、夏休み期間中のみみなさまのご来場をお待ちしております。

なお、「アニメミライ 2015」の上映につきましては、一般社団法人日本動画協会様のご協力を得て実現することになりました。ここにお礼申し上げます。

■日時・内容■

08/01 (土) 14:00～16:30

上映：アニメミライ 2011 (旧称：PEOJECT A)

司会：五所光太郎 (編集・ライター)

ゲスト：黄瀬和哉 (「たんすわらし。」監督/Production I.G)

谷村大四郎 (「たんすわらし。」脚本)

第6章 広報・広報制作物

08/02 (日) 14:00~16:30

上映：アニメミライ 2012

司会：五所光太郎（編集・ライター）

ゲスト：村川康敏（「ぶかぶかジュジュ」脚本）

谷村大四郎（「わすれなぐも」脚本）

08/07 (金) 14:00~16:30

上映：アニメミライ 2013

※トークショー実施なし

08/09 (日) 14:00~16:30

上映：アニメミライ 2014

司会：前田久（アニメライター）

ゲスト：外崎 真（「大きい1年生と小さな2年生」プロデューサー/A-1 Pictures）

吉浦康裕（「アルモニ」監督/ULTRA SUPER PICTURES）

稲垣亮祐（「アルモニ」プロデューサー/ULTRA SUPER PICTURES）

08/21 (金) 14:00~16:30

上映：アニメミライ 2015

※トークショー実施なし

■料金■

無料・事前申込不要

※座席数の都合でご観覧いただけない場合もございます。

■場所■

国立新美術館 3階 講堂

■主催■

一般社団法人日本アニメーター・演出協会 (JAniCA)

■協力■

一般社団法人 日本動画協会

一般社団法人アニメミライ

マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアート産学官民コンソーシアム

■問い合わせ窓口■

JAniCA 事務局 (postmaster@janica.jp)

また、連携企画として以下を実施いたします。

■スペシャルトークイベント 1

『紙のマンガは生き残れるか？

— デジタルマンガの源流を探る —』

■スペシャルトークイベント 2

『ニッポンのマンガ*アニメ*ゲームの

源流をさぐる—サブカル*オタクの pre 1989—』

■スペシャルトークイベント 3

『昭和 30 年代のテレビ CM とアニメーション』 *2 回開催

■上映会

『昭和 30 年代のテレビ CM とアニメーション』

イベント・上映会の詳細につきましては、京都精華大学の『国立新美術館「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」展 連携企画 トークイベントと上映会の開催のお知らせ』をご確認ください。

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/info/info/topics/2015/07/17/33140/>

6.3 Web アンケート

6.3.1 アニメミライ上映会分

対象：アニメミライ 2011～2015 上映会

「アニメミライ」(2011～2015)上映会アンケート

★あなたについて教えてください

出身地域
未選択

性別
未選択

年齢
未選択

所属
未選択

漫画・アニメ・ゲームに対する印象
未選択

好きなジャンル・作品

★鑑賞した作品はどちらですか

鑑賞した作品
08月07日 アニメミライ2013

来場理由
未選択

★感想はいかがですか

作品上映
普通

トークショー
普通

★自由記述

なにかございましたら自由にお書きください

★プレゼント

本アンケートにご回答いただいた方の中から、プレゼントを予定しています。ご希望の方は、郵便番号・住所・氏名・電話番号をお書きください。ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送にのみ使用させていただきます。発送は国内のみとさせていただきます。

郵便番号

住所

氏名

電話番号

上記でよろしければ下記のボタンを押してください。

登録します

第6章 広報・広報制作物

6.3.2 アニメミライ上映会以外分

対象：講演『ニッポンのマンガ*アニメ*ゲームの源流をさぐる—サブカル*オタクの pre 1989—』

講演『昭和 30 年代のテレビ CM とアニメーション』

上映会『昭和 30 年代のテレビ CM とアニメーション』

来場者 アンケート

★あなたについて教えてください

出身地域
未選択

性別
未選択

年齢
未選択

所属
未選択

漫画・アニメ・ゲームに対する印象
未選択

好きなジャンル・作品

★参加したプログラムについて教えてください

参加したプログラム
未選択

参加プログラムの感想
未選択

来場理由
未選択

★自由記述
なにかございましたら自由にお書きください

上記でよろしければ下記のボタンを押してください。

第7章 成果・課題・評価

7.1 アンケート結果

- ・スーパーアニメーター黄瀬さんの貴重な話が聞けて来たか良かったです。明日も来ます。
- ・お尻が痛かったです。
- ・とても楽しかったです。しかも、無料?!今回の project A の作品は配信で見たものもありましたが、大きいスクリーンで見ることができて、良かったです。でも、残念なことも。。。せっかくいいイベントなのに、人が少なくもったいないです!!!広報頑張ってください。ニッポンの～企画展に来てた人で、このイベント知らなかった人たくさんいると思います。美術館の HP の企画展のイベントには載ってなかったです。知っていたら、来たかった一という人たくさんいたはずですよ。もったいない。でも、私個人はとても楽しませていただきました。たんすわらし癒やされました。これからも、アニメミライ注目します。ありがとうございました。
- ・監督さんと脚本家さんという、作品の根幹を務める方たちの作品の打ち明け話やプライベートな飲み話、若手への教授エピソードなどどれも興味深く拝聴してもらいました。またこうした機会があれば参加したいです。あと、出入り口付近に置かれていたパンフなどは、手に入れられなかったものもあり展示されたパンフの製作コメントなど読みごたえがあつてありがたかったです。
- ・projectA の時から映画館に見に行っています。2012 だけ見逃していたので見に来ました。わすれなぐものラストは今までアニメの中で一番くらいの衝撃でした。毎年、個性的な作品が 4 つ集まっています見応えがあります。原画や動画を担当した方の紹介や担当したカットについて一言などが本編の後にあつてもいいのでは、と思いました。
- ・とても深いお話でした。ありがとうございました!
- ・アニメという日本の財産とも言えるコンテンツの将来を、視聴者という立場ながら考えさせられた、素晴らしい機会でした。アニメ産業の現状や背景について、より意識しながら作品に触れたいと思いました。
- ・前々から観たいと思っていたアルモニが観れたので嬉しかったです。吉浦監督のファンですが皆様のアニメに対する姿勢や実際の制作秘話を伺えて楽しかったです。貴重なお時間を頂きありがとうございました!
- ・8月9日の「アニメミライ 2014」上映会に参加しました。今日は見たい作品があつたのと、トークショー目的で参加させていただきました。作品も楽しく拝見いたしましたが、今回はトークショーの内容が特によかったです。「アニメミライ」という事業については若手アニメーター育成という目的があるのは知っていましたが、今日のお話では、監督やプロデューサーの方々の作品に対する思いや、どんなところで苦労されたのか、どんなところにやりがいがあつたのかなど、深いお話もあつたし、「アニメミライ」だからできる作品作りの話など、とても興味深く聞かせていただきました。また、アニメファン歴が浅いわたしには、アニメ制作について知らない部分がたくさんあつたので、お話を聞いてとても勉強になりました。ゲストの方々も、思っていたより多く、大サービス!!という感じで、大満足です。ありがとうございました。

第7章 成果・課題・評価

- ・パロルを大きい画面で見られて良かったです
- ・吉浦監督の生トークショーがききたかったので
- ・もっと、質疑応答を増やして欲しい。司会者をちゃんとプロに頼むべき。ダラダラしてしまい、テンポがぎこちなかったです。
- ・BD も、単体でアルモニも購入しておりますが大きいスクリーンで見る機会はなかなかないのでトークも付いており良いイベントでした。先週の 2011 のイベントにも参加してみましたがアニメ業界の現状やアルモニについてなど広い内容のお話が聞けてとても楽しい時間が過ごせました。また機会があればこのようなイベントをやっていただけると嬉しいです。いつも吉浦監督関連のイベントに参加する際思うのは無料イベントの方が何故か人が集まらない…今回のように無料で上映付きで濃い話が聞けるイベントなのにとっても勿体無いです。それと報告書が展示されてましたが流石にじっくり読めませんでした…ファン向けに販売等していただけるととても嬉しいです。
- ・8.9 のアニメミライ 2014 上映イベントに参加させていただきました。私は、吉浦康裕監督を応援しているのですが、吉浦監督がアニメミライに参加されたことで、私も、アニメの見方が変わりました。原画の展示や完成した作品を拝見し、監督やプロデューサーの方々の話を伺って、このシーンはこう作られているのだなといった、一步踏み込んだ見方ができるようになりました。初めは原画や動画のことすら知りませんでしたが、アニメミライを知ったことで、そういったアニメの知識を得ることができたのも嬉しいことのひとつです。今後も、アニメミライ改め、あにめたまごに注目していけたらと思っております。こういったイベントを開催して頂きありがとうございました。
- ・とても深いお話でした。ありがとうございました！
- ・アニメミライの作品を初めて知りアニメの奥深さと感動の意味について考える時間となりました。
- ・普段見ることのできない映像を見れてよかった。アニメーションについて詳しい人の話が聞きたかった。
- ・続きがみたい！と素直に感じました。このような上映会を各地でしていただけたら、と思います。吉浦さんには細やかに話していただけて、作る側の視点がよくわかりました。また、司会の方も取り纏め、流石でした。
- ・音楽少女は思ったよりよくなかったです ハッピーカムカム泣きました ほか 2 つもとても良かったです
- ・テレビシリーズは基本 12 話構成のアニメが多いが、今回のように短い時間でも十分面白い作品は作れるんだなと感心した。また上映会の機会があれば見たいと思う。

7.2 課題

事業を 8 月 1 日から開始したため、準備にかかる時間的猶予が全くなく、スケジュール面では質・量ともに十分な告知ができなかった。

7.2.1 告知の不足

採択と同時に開催となるスケジュールだったために、告知は当法人や御協力を頂いた各団体での Web

サイトやメールマガジンなどでの配信しか対応ができなかった。

7.2.2 内容の検討不足

登壇者や上映作品など単体で見た場合には非常に興味深い内容ではあるものの入念に準備をした上で実施したとは言い難いため、更なる改善の余地があったのではないかと考える。具体的には、登壇者のバランスの再考や、実施日時の選定など。

7.2.3 運営の準備不足

会場設備・スタッフに恵まれ、当日の運営そのものはコンパクトに実施することができたが、記録などは十分には残すことができなかった。

7.2.4 複合分野という特質性

複合分野で本事業を実施したが、「複合分野」の広さ、深さの両面において実施の難しさを痛感した。まず「広さ」の尺度で分析すると、日本のエンターテインメント全体の裾野は広く、マンガ・アニメ・ゲームの質を維持したままで全分野について満遍なくカバーすることが非常に難しかった。次に「深さ」の尺度では、それぞれの分野の特定作品群に限った場合でも「(歴史的な) 研究」から「(最新の) エンターテインメント」まで知識理解度や流行性が異なるため、来場者にとって興味関心を促すほどの深いインパクトを与えるイベントを企画実施することの難しさがあった。

7.2.5 来場者・視聴者の対象層が不明瞭

事業趣旨からも「作品の既存の商業展開」と同じことをするのは避けねばならないが、「同じことではない」ことの難しさと、来場者の興味関心は主として「作品」にひも付く傾向があるために、個人単位でよほど高名な制作者でなければ多数の方に興味関心を持って頂くのは難しかった。

7.2.6 使用できる映像等素材の権利関係の手続が煩雑

一般的に知名度が高い作品は、商業作品であるために、映像素材等の使用に際しては権利元の許諾に時間がかかり、また、使用に際しては高額な使用料が発生してしまう。そのために、相対的に使用しやすい素材ばかりになってしまい、周知・集客につながらない。

7.2.7 実施場所、登壇者のスケジュール調整が難しい

制作現場や研究などの第一線の方々に登壇をお願いしているため、スケジュール調整が非常に難しい。本人にとって最もやりたいと考えている「制作」を中断してまで登壇を頂くための十分な対価が必要。

開催場所については、東京都内であれば比較的容易に実施することができるが、他地域では移動時間も付加して発生してしまうため、実施の難易度が上がってしまう。

7.3 評価

最終的に、当初想定した万全な結果は得られなかったが、前項までのような課題を明確化することができ、実験的な試みにチャレンジできたことは非常に有意義だったと考える。次年度に複合領域での採択がある場合には「可能な限り早期着手」「分野別の専門家による企画運営チーム編成」「各種権利者間との迅速な権利処理」「実施についての柔軟性の向上」が不可欠と考える。

本報告書は、文化庁の委託業務として、京都精華大学が実施した平成 27 年度「メディア芸術連携促進事業 連携共同事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。